

# 界面科学の研究者集う

## 志摩で国際会議始まる



世界各国の研究者らが参加して始まった界面粒界国際会議＝志摩市阿児町で

世界約二十カ国の材料界面科学の研究者らが集う「界面粒界国際会議」が二十八日、志摩市阿児町の志摩観光

ホテルで開幕した。七月二日までの五日間、講演や発表が繰り広げられる。界面とは、接触して

いる物質あるいは結晶同士の境界面のこと。材料や物質の内部にある無数の界面は、固さや電気の通しやすさなど、材料の特性を決定する重要な構造的因子とされる。

界面の機能を制御するナノテクノロジー研究は、材料開発分野、特に電池などエネルギー材料の技術革新に寄与すると期待されている。

国際会議は、研究者

の交流や情報交換などを目的に三年に一回あり、十三回目。同分野の研究が進む日本では三回目の開催で、東京大や日本金属学会などでつくる実行委員会が主催。研究者や学生ら約二百人が参加する。

期間中は、第一線で活躍する研究者による五十七題の講演や、そのほかの参加者による約百二十件のポスター発表が予定されている。(飯田竜司)